



C O N T E N T S

- 1 令和元年度 FD 研修会 [p. 1]
- 2 令和元年度 公開授業及び意見交換会 [pp. 1-13]
  - 2-1 公開授業開催概要 [p. 2]
  - 2-2 意見交換会開催概要 [p. 2]
  - 2-3 公開授業を終えて（公開授業担当教員の感想と意見交換会のコメント） [pp. 3-13]
    - 「農業経営論」大西 敏夫（経済学部 経済学科 特任教授） [pp. 3-4]
    - 「国際人的資源管理論」平野 光俊（総合経営学部 経営学科 教授） [pp. 4-5]
    - 「商学概論Ⅱ」岡田 孝浩（総合経営学部 商学科 助教） [pp. 6-7]
    - 「経営学概論Ⅱ」城間 康文（公共学部 公共学科 助教） [pp. 7-8]
    - 「経済システム論」森田 学（経済学部 経済学科 准教授） [pp. 8-10]
    - 「アダプテッドスポーツ演習」迫 俊道（公共学部 公共学科 教授） [pp. 10-11]
    - 「経営学特殊講義Ⅱ」植田 辰哉（総合経営学部 経営学科 教授） [pp. 11-12]
    - 「リゾートマネジメント」近藤 祐二（総合経営学部 商学科 特任教授） [p. 12-13]
- 3 令和元年度 授業アンケート [p. 14]

## 1 令和元年度 FD 研修会

令和元年度のFD活動の1つとして、2020年1月8日（水）16:30 から、本館6階大会議室において、第10回FD研修会が開催された。次第は以下の通りである。

- 1 開会挨拶
- 2 講演「今求められるシラバスとはー学生にとってわかりやすいシラバス作成のためにー」  
株式会社エデュース コンサルタント 豊増信賢氏
- 3 報告「シラバスの改訂に向けた取り組みについて」 教務委員会委員長 松尾俊彦教授
- 4 閉会挨拶

講演では、まず講演者の豊増信賢氏が所属する株式会社エデュースの事業概要と氏のプロフィールが紹介され、続いて昨年度のFD研修会の振り返りが行われた<sup>注</sup>。その後、今回の講演の目的、「学生にとってわかりやすいシラバスを作成・改善できるようになる」が示され、「学生にとってわかりやすいシラバス作成が必要な背景を説明できる」、「学生にとってわかりやすいシラバス作成の視点を説明できる」の2つの目標について説明が行われた。

1つ目の目標「学生にとってわかりやすいシラバス作成が必要な背景を説明できる」については、中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグラウンドデザイン」（2019年11月）を紹介しながら、「学修者本位の教育への転換」というコンセプトのもと、「何を学び、身に付けることができたのか」を可視化するため、教学的な組織全体としての教育の質を保証することの重要性が述べられた。また、「私立大学経常経費補助金」の配分基準や「高等教育の就学支援制度」などを事例にあげて、わかりやすいシラバス作成が求められる社会的背景の解説が行われた。

2つ目の目標「学生にとってわかりやすいシラバス作成の視点を説明できる」については、中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会資料「教学マネジメント指針（案）」（2019年11月）を引用し、シラバスが学生の履修選択や準備学習に寄与しているかという点が重要であるとの見解が述べられた。そうしたシラバスの機能を活性化させるための具体的な記載項目の事例（授業科目の目的と到達目標、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と授業科目の到達目標の関係、授業科目の内容と方法、授業科目の計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容）が解説され、他大学で実践されている先進的なシラバスが紹介された。

講演後に、松尾俊彦教授から本学におけるシラバス改訂に向けた取り組みに関する報告が行われた。本学の学生の実態に合わせたシラバスの記述の必要性（学修評価基準のあり方や予習復習の提示方法など）と、今後のシラバス改訂にかかわる予定について言及がなされた。

注：昨年度のFD研修会（2019年9月26日（水）16:30～）においても、同社コンサルタントの栗原智氏による講演が行われたことによる。



## 2 令和元年度 公開授業及び意見交換会

本学では、公開授業を行い、教員が他の教員の授業を参観し、その授業の方法や工夫について学ぶ機会を設けている。公開授業を参観した教員は、授業後に実施されるアンケートや後日開催される意見交換会で、授業を担当した教員に意見や感想をフィードバックする。このように、教員同士がお互いに学んだり意見を交換したり、あるいは相談したりする機会を持ちながら、教授法の向上を目指している。

## 2-1 公開授業開催概要

今年度は、後期第7週にあたる2019年11月11日(月)～14日(木)に公開授業が行われた。公開授業の対象となった授業科目は、今年度の新任教員が担当するもののほか、授業内容や受講者数などを勘案して選出された。対象科目の日時、科目名、担当教員、教室については以下の通りである。

月日	時限	科目名	担当教員	教室
11月11日 (月)	2	農業経営論	大西 敏夫 (経済学部 経済学科 特任教授)	624
	4	国際人的資源管理論	平野 光俊 (総合経営学部 経営学科 教授)	426
11月12日 (火)	2	商学概論Ⅱ	岡田 孝浩 (総合経営学部 商学科 助教)	423
	3	経営学概論Ⅱ	城間 康文 (公共学部 公共学科 助教)	412
11月13日 (水)	3	経済システム論	森田 学 (経済学部 経済学科 准教授)	435
	4	アダプテッドスポーツ演習 (地域スポーツ演習)	迫 俊道 (公共学部 公共学科 教授)	アリーナ (リアクト)
11月14日 (木)	3	経営学特殊講義Ⅱ	植田 辰哉 (総合経営学部 経営学科 教授)	セミナー ルーム1 (リアクト)
	5	リゾートマネジメント	近藤 祐二 (総合経営学部 商学科 特任教授)	422

各授業では、興味深い点や参考になる点などについて、参観した教員が自由記述形式で回答するアンケートが実施された。このアンケートの結果は、後日開催された意見交換会において、参加者に資料として配布された。

## 2-2 意見交換会開催概要

2019年11月20日(水)16:30から、本館4階会議室Ⅱにおいて、第10回公開授業意見交換会が開催された。参加者は公開授業の担当教員と参観教員及びFD委員の14名であった。FD委員会副委員長の孫飛舟教授による司会のもと、資料として配布された参観教員のアンケート結果を参考にしながら、担当教員の各授業の進め方を振り返り、参加者間で意見や感想が交換された。



まず会の冒頭に孫教授から、「公開授業は他の教員の授業に対する取り組みを参考にする機会であり、意見交換会は相談の場でもある」との挨拶が述べられた。その後で公開授業を担当した教員から、授業を進めるうえでの工夫点や困難を感じている点などが順次報告された。続いて授業を参観した教員から、授業に対する感想やアドバイスなどが述べられた。参加者による意見交換終了後に孫教授から、「本学の学生は学力の差が大きく、指導や成績評価などに苦慮されているということだが、各学生の目標に合わせた指導を行うのが良いのではないか」、「どの授業でも学生対応に工夫が見られ、これらを参考に今後の授業改善につなげていただきたい」という総括の言葉が述べられた。

## 2-3 公開授業を終えて（公開授業担当教員の感想と意見交換会のコメント）

公開授業を担当した教員には、意見交換会での報告とは別に、公開授業を終えた感想や意見を文章でもまとめていただいた。ここでは、それらを公開授業の実施順に掲載している。また、各文章の末尾には、意見交換会で交換された【担当教員のコメント】と【参観教員のコメント】を箇条書きで追記している。



### 「農業経営論」

大西 敏夫

（経済学部 経済学科 特任教授）

授業は毎回、緊張して行っています。授業が終わったあと、反省することが多いのですが、私なりに多少満足することも少なくありません。考えてみれば、そのことの繰り返しが授業内容の改善・工夫につながるのかもしれませんが。反省点は、次回以降の授業で生かすとともに、次年度のシラバス作成や他の講義科目にも反映するよう心がけています。

#### ＜授業の工夫点＞

今回、公開授業の対象となった科目は「農業経営論」です。登録は約 140 人、常時受講者は 100 人余りです。他の講義科目も同様ですが、授業の最初（第 1 回目）には必ずシラバス内容に即してガイダンスするとともに、講義の進行順序（柱立て）を紹介しています。その順序に従って授業を進めていますが、その際、概ね以下の点に留意しています。

1 つは、資料は毎回配布しています。「A4 判（両面印刷）」のレジюме（スペース付き）と図表（統計資料等）の 2 種類です。それを利用して板書しながら講義しています。板書の際には、文字は大きく、それも声を出しながら書くようにしています。

2 つは、視聴覚教材（ビデオ）を必ず数回は利用しています。講義内容を補足するもので、主にテレビ放映（シンポジウムや特別番組など）されたものが中心です。3 つは、授業のなかで数回程度、レポートの作成・提出（ミニレポート：ビデオの感想・意見、講義内容に即した課題提示）を実施しています。このレポートは定期試験とともに成績評価の対象です。



#### ＜本授業の課題＞

ところで、実家が農家であったり（ただし多くは兼業農家）、祖父母や親戚の方が農業従事者であったりという受講生も中にはいますが、就農を目指す学生（受講生）や農業関連産業（企業）への就職を目指す学生は実は少ないのが実態です。このため、「農業経営論」はひと工夫のいる科目と考えています。それゆえ、「農業経営論」では、できるだけ農業者の方々の経営感覚・経営思考（経営への思いや考え方）、人生観・仕事への情熱、生き方などを紹介すること。併せて、受講生にとっての身近な問題（食べ物、食生活や健康、食関連産業など）にも触れながら講義を進めることも重要か、と考えています。

今回、公開授業にご参加いただいた先生方には本当に感謝申し上げます。また、公開授業後の「意見交



換会」での貴重なご意見、さらには先生方のご発表と意見交換、大変有意義で参考になりました。ありがとうございました。

### **【担当教員のコメント】**

- ・昨年度は話しながら板書し、それを学生に書いてもらっていたが、学生が板書したものをスマートフォンで撮り始めたため、音がうるさくて失敗であった。今年度は音がしないように、資料としてレジュメを配布し、ポイントのみを板書するようにしている。学生が板書を写し終わったところを見計らい、次の話をするようにしている。
- ・昨年度は私語が多く、注意しても聞かなかった。大教室で履修者が少ないと私語が多く、学生の態度が悪い。今年度は、態度の悪い学生に対しては、その学生の席まで行き退室するよう指示するなど、厳しく指導している。
- ・授業に出席しているものの、「ただ聞いているだけ」と判明した約1割の学生は不合格とした。
- ・体育会系の学生は比較的まじめに受講している。

### **【参観教員のコメント】**

- ・講義の題材が身近な「米」であったため、学生が多様な視点から考える力を養うことができる。
- ・データや具体例を示して説明されていたので、学生が客観的に考え理解できる。
- ・学生がスマートフォンで写真を撮ったり、私語をしたりする姿は見られなかった。



## **「国際人的資源管理論」**

**平野 光俊**

**(総合経営学部 経営学科 教授)**

私は昨年10月に本学に赴任し、「国際人的資源管理論」を担当しています。公開授業（授業参観）に参加した先生方から大変有意義なご意見・アドバイスを頂戴したこと、紙面を借りて感謝申し上げます。また私自身も他の授業を見学させていただき、授業の改良に向けた先生方の様々な工夫を知ることができました。前任校にはこうした機会はなかったので、本学の取り組みは効果的なFDであると感じました。

### **<授業のポイント>**

国際人的資源管理は人的資源管理の一領域ですが、その重要性はグローバル経営の進展とともに高まっています。授業では多国籍企業の経営管理をグローバル経営と捉えています。その基本的課題は、本社と海外子会社の集権と分権、言い換えればグローバル統合とローカル適応のバランスをいかにとるかということです。授業では、こうした考えを概念化した「I-Rグリッド」をフレームワークに、企業事例を分析していくというスタイルをとりました。

### **<授業で重視したこと及び改善を要す点>**

この授業で重視したことは、第一に「実務と学術を架橋する」ということです。学生には実務経験がありませんので、ここでいうところの「実務」は企業や経営者の実践の事例です。一方、「学術」は経営学が蓄積してきた知見（学説や理論）を指します。授業では、様々な企業の事例を取り上げ、学術の知見を

用いて、グローバル経営の合理性（あるいは非合理性）を評価していきます。したがって事例の素材となる「教材」が重要となります。授業では、ビデオ教材を多用しました。例えば、神戸大学経済経営研究所が作成した「コニカミノルタ社」や「ダイキン・ヨーロッパ社」のケースです。また最近では、広報活動の一環として、自社の取り組みを動画に編集してHP上で公開する企業も増えています。授業では、日立のグループ・アイデンティティや、デンソー・ヨーロッパの多国籍チームの紹介ムービーなどを視聴しました。ただし動画も30分を越える長尺となると、学生の集中力が続きません。途中で解説を入れたり、ディスカッションを挟んだりするなど、飽きさせない工夫が必要で、この点は改善を要します。



重視したことの第二は、「研究に基礎を置く教育（Research Based Education: RBE）」です。授業では教科書を指定していますが、教科書は予習のためのものであり、授業でその内容をなぞることはしません。RBEの考えに則って、私自身が研究した内容を分かりやすく説明するよう心掛けました。一方、RBEには「学生自身が研究し学んでいく」という意味もあります。つまり教員の役割は情報伝達でなく、学生の主体的な研究に関与するということです。授業のテーマに即して学生が自ら研究課題を設定し、自分自身で研究（調べる、読む、議論する、書く）してみることが重要であると思います。研究

を通した学習はゼミでは普通に行われますが、大教室では難度が高くなります。しかしレポート課題を通して研究を促すことは可能なので、部分的に取り入れています。そのうえで、授業の中で学生が発表し、学生同士でディスカッションを繰り返すのが理想ですが、現状は全くできておりません。次回の課題としたいと思います。

### 【担当教員のコメント】

- ・比較的レベルが高い内容の授業であるが、学生はレポートを書かせると「できる」ことがわかる。レベルを下げる必要はないが、繰り返し波状的に説明する必要があるだろう。
- ・ところが、授業中にあてると学生は「わかりません」と言う。前任校では授業中にあてると学生は何か答えていたが、本学の学生は「わかりません」と言って閉じこもる。「わかりません」が中学生の頃から定着しているのではないか。
- ・事前に課題を与えておけばできるが、社会で必要とされる即興的な応対ができない。この点で、学生にコミュニケーション能力を付ける必要があるのではないか。
- ・「できる」学生と「できない」学生の分散が大きく、どこに合わせるかが課題である。
- ・履修登録数72名で2週目から出席数42名と30名が出てこない。「不可」にせざるをえないが、これでいいのだろうか。

### 【参観教員のコメント】

- ・教員はゆっくりとわかりやすい話し方をされており、教室も落ち着いた静かな雰囲気であった。
- ・教員が座席を回って学生に発問されたり、学生の発表をほめておられたりしたのが印象的であった。学生に発表させることで他の学生の注意を引き付け、ほめることで学生の意欲が高まる。
- ・出席しない学生は「不可」として問題ない。

**「商学概論Ⅱ」**  
**岡田 孝浩**  
**(総合経営学部 商学科 助教)**

この度は「商学概論Ⅱ」を先生方にご覧いただきありがとうございました。また、意見交換会では、貴重なコメントを頂戴いたしましたこと感謝申し上げます。

**<学習の土台となる科目としての責任感>**

商学概論の授業は、1年生が初めて商業学に接する科目になる。そのため、興味・関心への「動機づけ」と、専門科目を理解していく基盤（土台）づくりとして取り組んでいる。学生が興味を持っている事柄のサーベイを行い、ケースワークの事例に用いることで、「私たちの日常の生活シーンにある、身近で活用されている学問」であるというような方法で、理解を深めるように努めている。また、実際のビジネスシーンで運用される「報告・連絡・相談＝ほう・れん・そう」を用いて、毎回の授業冒頭10分に重要 POINT の復習「おさらい」、2回に1度の割合で授業後半10分を用いて POINT の整理「Practice!」を行い、学習した「点と点」を繋げている。次年度以降の専門科目を履修する学生にとって、基礎（土台）の理解は、絶えず授業担当として責任重大に感じている。

**<理論がどのように活用されているのかの融合への取り組み>**

よく耳にする「運が良かった」という言葉があるが、普段から学びや準備をしている人だからこそ「チャンスをつかめた」と思われる。このように、授業では習得した理論を基に、「現実の社会の企業活動において、どのように活用されているのか?」というように、応用の部分まで学ぶようにしている。これは新しい発想やビジネスプランなどにも重要であり、理論と実社会の融合をさせる学習に努めている。しかしながら、課題も多くある。教育素材の確保や学生の関心度にバラツキがあるため、適宜、動画資料やニュース素材も用いて、まだまだ把握できていないことから改善を進めていきたい。



**<具体的なアクションとして>**

本年度は、大塚製薬株式会社（マーケティング本部・ブランドコミュニケーション部）を外部講師として招聘し、「リポビタン D」におけるマーケティング戦略の取り組みについて授業をしていただいた。同授業までに、基礎部分の理論の習得を完了させ、事前に質問の収集も行いフィードバックもいただいた。学習した「理論」を基に実際の企業戦略として具体的に企業担当者から聞くという機会は少ないと思われるため、良い機会になった。

※公開授業の日程が、大正製薬「リポビタン D」の授業日になった。

**<今後の課題として>**

「関心がわき、魅力のある授業とは何か?」が大きな課題である。この度の公開授業を通じて、ご教示いただきましたことをもとに、今後の授業改善に努めたい。



### [担当教員のコメント]

- ・公開授業の日は、特別講師を招聘する日に当たっていた。7回目までの授業で基礎的な事項を学び、基礎的知識をもったうえで企業の方から直接話を聞き、マーケティング戦略を学ぶという授業計画であった。
- ・最初の10～15分で前回の授業の復習をし、当日の授業内容に入るようにしている。
- ・授業内容としては、学生が興味を持つスポーツなどをとりあげ、ポイントを整理して説明するようにしている。
- ・成績評価方法は試験7割、平常点3割にしている。

### [参観教員のコメント]

- ・特別講師を招いての授業は、面白く興味深かった。特別講師を招聘するシステムをうまく活用すると、学生が企業の方の話を聞く機会ができ、学生の興味や意欲を引き出すことができる。
- ・授業の最後に、企業が作成したアンケート用紙に学生が回答していた。このような場合、学生の個人情報が出ないように徹底することが必要である。(注：このアンケートでは無記名であった)
- ・公開授業の前後で理論と実践の橋渡しがされており、良い授業デザインであった。



## 「経営学概論Ⅱ」

城間 康文

(公共学部 公共学科 助教)

### <はじめに>

公開授業の対象となったのは「経営学概論Ⅱ (11月12日火曜日3限目)」である。この科目は2回生が受講対象で、今年度後期は約140名が履修している。

「経営学概論Ⅱ」は複数の先生がそれぞれのクラスを担当しているが、同一の授業計画のもと、それぞれ異なる教育方法で講義が行われている。概論ⅠとⅡで受講生が初めての経営学を広く浅く知り、その後、関心を寄せる専門科目(例えば、経営組織論、経営戦略論など)を深く理解する位置づけとなっている。

### <授業の方法について>

先述したように、100名以上の履修者がいるが、経営学の基礎をできる限り習得してもらうよう工夫を重ね、講義を行っている。ここでは、3つの取り組みを指摘したい。

1つ目は、経営学の概念や理論を紹介する際、事例を用いて具体的に説明することである。各回の講義で説明するテーマは概ね定まっているため、そのテーマや重要となる概念・理論をどのように説明するかが大切と思われる。私の場合、最も重要となる概念や理論を取り上げ、それを身近な例などを用いて具体的に紹介している。同時に、多様な内容を詰め込んで紹介することを避け、テーマの中核とならない概念・理論は削るようにしている。このことによ





て、最も重要な概念や理論の理解を深めることができると想定している。

2つ目は、復習とレポート作成の重視である。講義時間の冒頭を使い、前回学習した概念や課題を簡易に振り返っている。また、講義後半では内容に沿った課題を用意しており、説明した概念や理論を用いてまとめてもらう。当初、受講生は戸惑うようだが、毎回繰り返すことで少しずつ慣れ、コツをつかむ学生が増えているように感じている。復習を重視すること、自分の言葉でレポートに取り組むことによって、知識の定着を図っている。

3つ目は、座席の指定である。間を開けて学籍番号順に着席してもらうことで、私語を少なくしている。座席表により本人を特定できるので、私語を継続する受講生は極めて少なくなる。私語が少ないことで受講に集中しやすい環境となっている。

### <最後に>

公開授業に参加いただいた方々から貴重なご意見を頂戴しました。ありがとうございました。教育方法として改めて気づく点、改善点がございました。加えて、経営学の専門的な知見から、講義内容について極めて重要なご指摘もいただきました。今後の教育・研究に反映する所存です。心より感謝を申し上げます。

#### [担当教員のコメント]

- ・担当科目が主専攻科目の基礎科目であり、複数の先生が同じ科目を教えている点や、1年時に単位を落とした学生が受講している点を意識しながら、学生に専門的用語や基礎概念を覚えてもらえるよう授業を行っている。
- ・毎回、前回の授業の復習を行い、今回の講義とのつながりがわかるようにしている。
- ・授業の3分の1は専門用語の紹介、3分の1は企業活動の理解、3分の1は実際の問題についてである。
- ・自分が理解できているかを確認するため、学生に授業で説明した専門用語を使ってレポートを書いてもらっている。
- ・大きめの教室で、学生が間を空けて座るよう座席指定をしている。

#### [参観教員のコメント]

- ・講義の構成や進行がうまい。内容も練りこまれており、全体としてよくまとまっている。
- ・パワーポイントとプリントの併用、録画画像の視聴など、学生の理解を高めるという点で授業の進め方に工夫がなされている。
- ・教室は静かで私語はなかった。座席を空けて座らせている点が良かった。
- ・レポートを授業中に回収するという点が良かった。



### 「経済システム論」

森田 学

(経済学部 経済学科 准教授)

大学における教育を充実させていくには、学生の学習意欲を向上させ、授業を活性化させる必要がある。以下では、公開授業を振り返りながら、学習意欲向上に向けた授業のあり方について考えてみる。

## ＜授業への取り組み方＞

大学で経済学を学ぶ意義の一つは、社会の仕組みを理解するための「ものさし」を得ることであると個人的には考えている。したがって授業では、専門的な知識の習得とともに、現実社会を捉えるための思考の枠組み（経済学的な思考方法）を身につけさせることを意識しているが、これが難しい。

経済学的な思考方法を身につけるには、授業の中で示される思考方法や物事の捉え方を模倣することが望ましく、経済学では図を用いて概念を説明することが多いため、授業では図を板書することが多い。ハンドアウトやパワーポイント等でも提供している同じ図であっても、その構築過程が目の前で示され



ることで、背景にある考え方や思考の過程が伝わるのではないかと思い実施している。公開授業では、都市空間における土地利用の分化について取り上げたが、その説明のために用いた図の完成型を見ただけでは、思考の過程を辿ることは難しかったはずだ。

また、パワーポイントを利用すると授業スピードが速くなり、学生が内容を理解・消化するための余裕がないまま授業が進んでしまうことがあるが、板書を挟むことによって授業スピードをコントロールすることもできる。

なお、授業では、その日のテーマと狙いを最初に提示し、それに基づき授業を進めている。また、内容をどこまで理解しているのか、補足の説明が必要なのかを把握するため、授業内容に関する質問シートを配り学生に答えさせている。

## ＜今後の改善点・課題＞

教科書を指定しているが、あまり読まれていないようである。理解を深め知識の定着を図るためには、授業を受けるだけでなく教科書も読んでもらいたい。そのためには、授業開始時に教科書の範囲を指定して小テストも実施する必要があるのかもしれない。また、学生の学習意欲は自身が興味深く思うかどうかよりも、「この授業は将来役に立つのか？」ということに依存しているように思われる。簡単な質問を全体に投げかけ挙手させることで、結果を確認するなどして授業への関心を引きつけようとしているが、将来につながるものであることを伝える工夫が必要と感じている。

その他、その日の授業の中で重要なこと、学生に理解してもらいたいことについては、内容を繰り返しながら話すようにはしているが、振り返りとまとめのパートの時間を確保するなどし、より学生に伝える工夫も必要と感じている。

## 【担当教員のコメント】

- ・今まで担当したことがない科目であり、何を教えるべきなのか悩みながら教えている。
- ・学生の学力・知識の程度が把握できていない。ミクロ経済学を理解していない学生もいるようだ。
- ・教室でぼんやりと座っているだけの学生、トイレに行く学生、出席を取ると教室の後ろから出ていく学生などがおり、その対応をどうすべきか考えている。
- ・授業中にトイレに行く学生が多い。トイレに行くときは、盗難防止のために荷物を全て持って行くよう学生に伝えている。
- ・成績評価方法は、前期の授業（受講者数約 210 人）ではレポート 100%であった。後期の授業（受講者数約 60 人）では、レポート 30%、試験 70%としている。





われがちであった緊張感が生まれ、学生は楽しく真剣に取り組んでいた。ご多忙の中、公開授業にご参加いただき、貴重なご意見を頂戴した先生方に衷心より御礼を申し上げます。

### [担当教員のコメント]

- ・学生の指導者としての資質を養う授業であり、学生がPDCAサイクルを回しながら高齢者のスポーツ教室でコーチングを行っている。
- ・授業が終わった後にビデオで振り返り、学生にその場で気づいたことなどを書かせて提出してもらっている。教員はコメントを書いて学生に返却している。
- ・教員がフォローしながら、学生は指導者としての資質を養い、また達成感を得ることができる。
- ・近隣に住む高齢者とゲームを行う授業は、地域貢献も担っている。

### [参観教員のコメント]

- ・学生が楽しみながら、主体的に取り組んでいる様子に好感がもてた。
- ・学生による相互評価の仕組みによって、他の学生の意見を取り入れながら、学生は自らの学習を客観的に振り返り、今後の改善につなげることができる。
- ・実際に競技に参加させていただいたが、とても楽しかった。



## 「経営学特殊講義Ⅱ」

植田 辰哉

(総合経営学部 経営学科 教授)

### <担当科目における授業の目的>

公開授業では、経営学科の学生（3年生、4年生）を対象とし、ハーバードビジネススクール（マイクロフレッジ：コンセプト）のケース分析を行った。また、公開授業を含む15回の後期授業を通して到達してほしい主な目的として、以下の3つを考えている。

- 1) 様々な視点からビジネスを考え、自分の将来についてのヒントを得る。
- 2) 様々な視点で分析し考える習慣を身に付ける。
- 3) 授業中パワーポイントを用いて発表することにより、プレゼンテーション能力の向上を図る。

この度の公開授業では、マイクロフレッジ：コンセプトの分析を行い、経営者の経営能力や手法、製品の強み、弱み、機会、脅威といったSWOT分析に基づいた分析を行い、パワーポイントでのプレゼンテーションを目的としたグループワークを行った。

### <授業についての考え方>

授業を行う際の考え方として、ティーチングとコーチングを分けて指導している。後期の授業（1回目）で、大木理論について説明した。大木の幹の部分を目指し、守らなければならない規律（ティーチング）について説明し、大木の枝葉を目指し、学生自らが積極的に考え答えを導き出す（コーチング）について説明した。その考えに基づき、この度の公開授業においても私からの一方的な支持やアドバイスは行わないこととしたが、パワ







になりがちな時間帯なので、最初に前回の講義からこの1週間で放送された観光に関する最新ニュースビデオを視聴し、講義内容に関心を持たせるようにしています。



そして、自ら志願してきた学生が前に出て約10分間の研究発表をします。テーマは観光に関することなら自由としています。発表のあと私から2、3質問と議論を交わし、発表内容の解説をして終了とします。この研究発表の狙いは、前で発表している学生を見て今の自分の知識や理解度と比べることで、自分のレベル・立ち位置を把握させることにあります。

その後、その日のテーマに沿った講義に入っていきます。進行方法は、パワーポイントや画像・映像を利用しながら、リゾートビジネスの状況やあり方について問いかけながら解決方法を考えていきます。講義の最初に簡単な設問を用意したペーパーを配布し、受講生にはスライド見ながら都度その解答用紙に記入させ、スライドと解説による講義のインプットと解答用紙に記入するアウトプットを併用させることで、講義内容の理解が深まると考えています。

講義の最後にはリアクションペーパー記入の時間を取ります。解答用紙の最後の部分に講義内容の感想や要望欄があり、講義終了5分前から記入させます。次回の講義時に記入された質問に答え、取り入れられる要望は講義内容にも反映させていきます。

以上、講義を進めるにあたっての心がけや実践方法を説明させていただきました、このような振り返りの機会をいただきまして誠にありがとうございました。

### **[担当教員のコメント]**

- ・授業は学生の発表、ビデオ視聴、課題シート、リアクションペーパーなどを組み込みながら行っており、パワーポイントで今日の狙いを明示している。
- ・5限目の授業であるが、学生の出席率は良い。
- ・授業の冒頭で学生に関心のあることを発表させ、発表した学生には加点している。
- ・先週のリアクションペーパーを読み上げ、質問に答えるようにしている。
- ・課題シートを使用しながら、「あなたならどうするか」を学生に考えさせるようにしている。
- ・課題シートは授業を聞いていれば記入できるようにしており、全員に提出させている。
- ・提出された課題シート約100名分は全て目を通している。
- ・私語対策が今度の課題である。

### **[参観教員のコメント]**

- ・学生が自主的に発表していることに驚いた。学生の自主的発表を促すことは、学生の学習意欲や聞く意欲を高めるうえで効果的である。
- ・学生の課題シートを全て読み、それにコメントするのは大変なことだが、課題シートという形で学生に学習内容のアウトプットをさせることは、知識の定着という点からも重要である。
- ・細かく質問に答えることは難しいと思うが、学生の理解は深まる。



### 3 令和元年度 授業アンケート

#### ＜実施方法＞

本学では、学生の学習に対する考え方や学習意欲を把握し、本学の教育活動の推進に活用することを目的に、学生を対象にした授業アンケートを実施している。2017年度までは年1回の実施が通例であったが、2018年度からは、新学科開設や授業半期化といった教育課程の改編に伴い、前期と後期に1回ずつ、年2回のアンケートを実施している。各回において1教員につき1科目ずつの実施という点は、従来通りである。

今年度は、前期は第14週の2019年7月15日（月）～19日（金）[予備日7月22日（月）～26日（金）]、後期は第14週の2020年1月6日（月）～10日（金）[予備日1月14日（火）～20日（月）]に、それぞれ1回ずつアンケートを行った。このアンケートは、実施期間中の授業時間において、携帯電話やスマートフォンによる出席確認システムを用いて行っている（機器が使用できない場合は用紙での対応）。

#### ＜対象科目＞

授業アンケートの対象科目は、基本的には各教員が担当する科目の中で受講人数が最も多いものとなっている。受講人数や担当科目の変動によって、必ずしも毎年度同じ科目が対象になるわけではない。同一科目のこれまでのアンケート結果と比較して経年変化を見たい、あるいは別の科目について学生の意識や反応を知りたいなど、教員の要望や判断によって対象科目を変更することも可能である。

#### ＜アンケートの内容＞

アンケートの内容は、学生の属性や出席率に関する3つの設問に加えて、6つの下位項目から成る授業内容に関する設問、4つの下位項目から成る教員の教え方に関する設問、4つの下位項目から成る学生自身の受講態度に関する設問、そして総合的な授業満足度を問う設問で構成されている。各設問には、「1 全くそう思わない」～「5 強くそう思う」の5つの選択肢が与えられており、学生はいずれか1つを選択する形式になっている。また、アンケートの最後には自由記述欄が設けられており、各教員の判断で学生に自由記述回答を求める設問を加えることもできるようになっている。

#### ＜教員からのフィードバック＞

授業アンケート結果に対するフィードバックとして、各教員は自身の授業に関する「振り返りシート」に記入し、期日（今年度は2019年8月31日と2020年1月31日）までに提出することになっている。これは、各教員が出席確認システムから授業アンケートの集計結果を見て、感じた点や授業運営で工夫している点などについて自由記述形式で記入するようになっている。

#### ＜結果の開示方法＞

授業アンケートの集計結果については、本学図書館で閲覧することができる。また、教員が「振り返りシート」に記述した授業運営で工夫している点の一部は、本学ホームページのFD活動ページにある、「＜参考資料＞ 学生の学びを支援するための取組み紹介」の＜取組み例＞に掲載されている。

大阪商業大学 FDニュースレター 第20号

発行日：2020年3月20日

発行：大阪商業大学FD委員会

〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4-1-10

Tel 06-6781-8816 Fax 06-6781-6156